

調 査 研 究 結 果

種目	道 徳	発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名
観 点	教科書名等	38・光村	道徳724	中学道徳1きみがいちばんひかるとき
	項 目		道徳824	中学道徳2きみがいちばんひかるとき
取 扱 内 容	地域への興味関心	第1学年	重要無形文化財の輪島塗の椀に関する文章を扱い、郷土の伝統や文化を受け継ぐことよさを考える活動等を取り上げている。	
		第2学年	新潟県の伝統行事「村上大祭」や「町屋の人形さま巡り」の文章を通して、ふるさとを思う心について考える活動等を取り上げている。	
		第3学年	照明デザイナーの石井幹子さんが障子のあかりについて述べた文章を扱い、日本の文化を知り、継承していくことの意味を考える活動等を取り上げている。	
	命の連続性	第1学年	生きるとは、どのようなことかや人は、なぜ命の尊さを感じるのかを考える活動を取り上げている。特に、いじめの問題については、いじめが起こらない社会をつくるために大切なことは、どのようなことかを考える活動を取り上げている。	
		第2学年	生きていると感じることができるのは、どのようなときかや命とは、どのようなものかを考える活動を取り上げている。特に、いじめの問題については、周りの人の善意に支えられていると感じるのは、どのようなときかを考える活動を取り上げている。	
		第3学年	命を大切にすると、どのようなことかや命を大切にすることは、どのようにすればよいかを考える活動を取り上げている。特に、いじめの問題については、いじめをなくすために、自分にはどのようなことができるか考える活動を取り上げている。	
	自己肯定感・自己有用感の醸成	第1学年	自分のよさを伸ばすために大切なのはどんなことかを扱い、自分や友達のよいところを見つけたり、自分のよいところについて考えたりする活動等を取り上げている。	
		第2学年	自らを高めていく生き方とはどんな生き方なのかを扱い、自分の考えに合う立場を選んで発表し合う活動等を取り上げている。	
		第3学年	『論語』を扱い、気に入った言葉、気になる言葉を選び、自分を見つめる活動等を取り上げている。	
	生活習慣 (ゲーム・スマホ)	第2学年	中高生を対象にした自由な時間に関する調査結果とインターネット依存に関する新聞記事を扱い、規則正しい生活の大切さを考える活動等を取り上げている。	
	情報化への対応	第1学年	インターネットやSNSを扱い、自分の悪口やうわさ話などを書かれたら、どのようにすればよいかを話し合う活動を取り上げている。	
		第2学年	携帯電話やスマートフォンを扱い、上手に利用していくためには、どのようなことを心がけるとよいかを話し合う活動を取り上げている。	
		第3学年	インターネットを扱い、様々な人から発信される情報を見極め、自分の考えや判断に責任をもつために必要なことは何かを話し合う活動を取り上げている。	

	男女平等		第1学年 異性の友達と友情を育んできた生徒の物語を扱い、性別等にとらわれない友情関係や信頼関係について考える活動等を取り上げている。
	いじめ問題への対応		第1学年 タレントのさかなクンが著したいじめに対するメッセージを取り扱い、社会や集団からいじめをなくしていくために行うべきことを考える活動等を取り上げている。 第1学年 いじめる立場、いじめられる立場、傍観者の立場を想定し、いじめを防ぐためにできることを考える活動等を取り上げている。 第2学年 「いじり」を受けている側と、行っている側のそれぞれの立場から感じる感じ方の違いを扱い、身近に「いじめ」につながる言動がないかどうか考える活動等を取り上げている。 第3学年 ある中学校のいじめ防止の取組を扱い、いじめを防ぐ意識を高める活動等を取り上げている。
内容の構成・排列、分量等	教材数	中心的に扱う教材	第1学年 35（読み物35） 第2学年 35（読み物35） 第3学年 35（読み物35）
		補助的に扱う教材	第1学年 18（読み物・コラム11、他7） 第2学年 18（読み物・コラム11、他7） 第3学年 20（読み物・コラム13、他7）
	議論を行い自分との関わりで考察できる工夫		各学年に、問題を解決するための発問「考える観点」を配置し、様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。
使用上の配慮等	家庭との架け橋となる工夫		各学年に、生徒が家庭での話し合いにつなげられるコラムを配置し、家庭や地域社会との共通理解を深めることができるようになっている。
	地域の人々との連携や地域の行事との関連を図った学習活動の充実		郷土の伝統や文化を受け継ぐことよさを考える活動、ふるさとを思う心について考える活動、日本の文化を知り、継承していくことの意味を考える活動等を取り上げるなど、生徒が実感を伴って学習できる教材を活用できるように配慮している。また、自分とは関わりの少ない地域の事例の場合でも自分の住む地域につなげられるよう、「日本の郷土玩具」「日本各地の世界遺産」「日本の先駆者たち」など、てびきも工夫されている。
	自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見つめたりする工夫		各学年に、教材ごとに自分の気づきを書き留めることのできる「私の気づき」や、1年間を通じて自分の考えを書き留め振り返ることができる「学びの記録」を配置し、自らの道徳的成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。
	教材ごとのねらいやテーマの掲載状況		教材の冒頭に学習指導要領の内容項目を示し、主体的な姿勢で学習に取り組むことができるように配慮されている。
	教材ごとの展開における発問の掲載状況		各教材末尾に学びのテーマに迫るために、「考える観点」として、道徳的な問題を明らかにする問い、道徳的な価値についての理解や自覚を深める問い、自分に引きつける問い・テーマ的な問いの3つの発問を設定している。また、「見方を変えて」として、生徒が多面的・多角的な見方や考え方ができるよう、「考える観点」とは視点を変えた発問を設定している。
その他	その他の特色		